

特別連載

vol.33

公益財団法人 野球殿堂博物館

「橋戸賞」と橋戸 信氏胸像

2017年、平松政次氏が野球殿堂入りしました。

平松氏は岡山東商から日本石油に進み、1967年の第38回都市対抗野球大会で優勝に貢献、大会MVPである「橋戸賞」を獲得しました。今回はその「橋戸賞」と橋戸 信氏の胸像をご紹介します。

1936年3月、“都市対抗生みの親”といわれた橋戸 信氏（1959年野球殿堂入り）が逝去。橋戸氏は早稲田大野球部草創期に主将を務め、後に現在の毎日新聞等で記者として活躍。都市対抗野球大会創設に大きく寄与し、その功績をたたえ、同年の第10回都市対抗野球大会から、最高殊勲選手賞が「橋戸賞」となりました。

最初の受賞者は門司鉄道局の井野川利春氏（のち阪急他）で、昨年の第87回大会までに計73名が受賞しています（第15回は大会中止、第16回は該当者なし）。後に野球

殿堂入りした名選手では、平松氏をはじめ、吉田正男氏（第13回・藤倉電線）、荒巻淳氏（第20回・星野組）、藤田元司氏（第27回・日本石油）、古田昌幸氏（第37回・熊谷組）の5氏が受賞しました。また、過去2度受賞したのは、第22、23回の松井実氏（全鐘紡、日本生命から補強）、第63、68回の杉浦正則氏（日本生命）、第83、84回の大城基志氏（JX-ENEOS）の3氏だけです。

写真の橋戸氏の胸像は、彫刻家の藤井浩祐氏の作品です。最初の橋戸賞が贈られた第10回大会決勝の翌日（1936年8月11日）、神宮球場で開催された橋戸氏の追悼試合に際し、遺族に贈られたものです。その後、藤井氏による打者像が橋戸賞のトロフィーとなっています。

7月14日から10月1日まで開催する「野球殿堂入り特別展」では、平松氏所蔵の橋戸賞も展示中です。

公益財団法人 野球殿堂博物館

学芸員 関口貴広

